

裏磐梯の観光の歴史，国立公園，エコツーリズム，ジオパーク，裏磐梯の来訪者

川崎興太（福島大学 共生システム理工学類）

本稿は，私が磐梯朝日遷移プロジェクトを通じて実施した，①裏磐梯の観光の歴史，②国立公園，③エコツーリズム，④ジオパーク，⑤裏磐梯の来訪者に関する研究の概要を整理したものである．①裏磐梯の観光の歴史に関しては，大きく5つの時期に区分できること，②国立公園に関しては，暮らしやなりわいの活性化という視点を組み入れた国立公園制度が必要であること，③エコツーリズムに関しては，北塩原村の住民は環境保全・観光振興・地域活性化に一定の効果があると考えており，その継続的な推進に期待を寄せていること，④ジオパークに関しては，北塩原村・猪苗代町・磐梯町の住民は，磐梯山ジオパークについて，ジオパークを通じてどのような地域を目指そうとしているのかが必ずしも明確ではないと考えていること，⑤裏磐梯の来訪者に関しては，10年前と比べて半減しており，特に関東地方からの団体客が減少していることなどを指摘している．

1. 裏磐梯の観光の歴史

(1)明治21年：磐梯山の水蒸気爆発とその後の先人たちの営為

- ・先人たちによる植林などの多大な努力と私財の投入

(2)昭和25年：国立公園の指定と知名度の向上

- ・戦後間もない経済困窮期における指定

(3)昭和30～50年代：観光客の増加と観光インフラの充実

- ・マストツーリズムと観光有料道路・宿泊施設

(4)バブル経済期：新たなスキー場の開発と通年型観光地への変貌

- ・通年型の観光地に変貌

(5)現在：エコツーリズムとジオパークと原発事故被害

- ・国立公園の存在感・知名度の低下

2. 国立公園

(1)わが国の国立公園制度の特徴

- ・地域制の採用
- ・“上から目線”の制度設計

(2)国立公園関係者の国立公園と国立公園制度に関する認識

- ・全国の自然保護官アンケート調査
- ・北塩原村住民アンケート調査

(3) 国立公園と国立公園制度の問題点と課題

- ・ 空き家や耕作放棄地などの増加に伴う国立公園の基本的な性質の悪化
- ・ 国立公園の存在感と国立公園制度の社会的受容性の低下
- ・ 暮らしやなりわいの活性化という視点を組み入れた国立公園制度の必要性

3. エコツーリズム

(1) 全国のエコツーリズム地域推進組織の実態

- ・ 全国の地域推進組織アンケート調査

(2) エコツーリズムのガイドの実態

- ・ 裏磐梯エコガイドの会アンケート調査・ヒアリング調査

(3) エコツーリズムに関する住民意識

- ・ 北塩原村住民アンケート調査

→ 国立公園区域の内外、年齢、職業により多少の差異はあるものの、①認知度が高い、②環境保全・観光振興・地域活性化に一定の効果があると考えられている、③継続的な推進に期待が寄せられている

4. ジオパーク

(1) 全国のジオパーク協議会の実態

- ・ 全国のジオパーク協議会アンケート調査

(2) 磐梯山ジオパーク住民意識調査

- ・ 北塩原村・猪苗代町・磐梯町の住民に対するアンケート調査

→ 磐梯山ジオパークは、多くの住民に認知されている、しかし、ジオパークを通じて、どのような地域を目指そうとしているのか、住民の暮らしやなりわいにどのようなメリットをもたらさうものなのかということが必ずしも明確ではないと考えられている

5. 裏磐梯の来訪者

(1) 裏磐梯の来訪者の特性に関する調査

- ・ 平成 24 年度から実施

(2) 五色沼自然探勝路への来訪者の特性に関する詳細調査

- ・ 平成 27 年に実施（平成 17 年調査と比較）

→ 10 年前と比べて半減しており、特に関東地方からの団体客が減少している